

おわりに

鴨川は、流域面積約 207km²の中小河川であるが、世界的に見ても非常に古い時代から人の手が加わった「都市河川」であり、平安京の造営以来様々な歴史を刻み、あるいは優れた文化を育みながら、都とそこに暮らす多くの人々の生活と密接に関わってきた。そして、その関わりは、大都市京都において今もなお受け継がれている。

しかしながら、その一方で、鴨川を中心とした京都盆地の水循環や鴨川に対する人々の意識は大きく変化し、このことは現在において様々な課題を生み出している。

この懇談会を通じて、鴨川が抱えるこれらの課題について議論し、今後、行政及び地域住民が取り組むべき方向性を、三つの観点、すなわち「安心・安全の鴨川をめざして」、「千年の都・京都の美しい鴨川をめざして」、「より一層多くの人々から親しまれる鴨川をめざして」として取りまとめた。これらの実現にあたっては、京都に住むひとりひとりが、鴨川の持つ歴史的或いは文化的な価値を認識しつつ、これからの鴨川のあるべき姿を考え、行政と住民とが連携して、ともに行動していくことが重要である。また、行政は、鴨川に関する河川整備計画の策定や条例の制定など諸施策の検討や実施において、この点を十分に踏まえながら取り組んでいかなければならない。

京都は、伝統を守りながら常に新しい文化、発想、技術を取り入れてきたまちであり、この京都の人々の知恵と力の結集によって、鴨川という京都の貴重な財産が、「山紫水明」の象徴として、未来に引き継がれていくことを期待するものである。